

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 26 日現在

機関番号：32680

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25370185

研究課題名(和文)近代における能楽の伝授と受容の諸相 免状に見る梅若家と素人弟子

研究課題名(英文)Aspects of transmission and reception of Noh,through the licenses given by the Umewaka family to its amateur disciples

研究代表者

三浦 裕子(Miura, Hiroko)

武蔵野大学・文学部・教授

研究者番号：30646287

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では初代梅若実資料研究会(研究代表者=三浦裕子、連携研究者=土谷桃子、研究協力者=加賀谷真子・氣多恵子・小林貴・中司由起子・深澤希望・別府真理子)がシテ方観世流能楽師の家柄である梅若六郎家が所蔵する『伝授免状扣』『伝授免状扣・第二』を共同して解読し、明治期の梅若家が弟子家ながら免状を発行するに至った経緯を明らかにした。その成果として報告書『近代における能楽の伝授と受容の諸相 免状に見る梅若家と素人弟子』(2017年3月)に、『伝授免状扣』『伝授免状扣・第二』の翻刻と索引を作成し、三浦が解題と論文「初代梅若実と免状 伝授権と免状発行権をめぐって」を発表した。

研究成果の概要(英文)：Aspects of transmission and reception of Noh,through the licenses given by the Umewaka family to its amateur disciples

In this study, the First Umewaka Minoru Study Group (research representative Hiroko Miura, co-researcher Momoko Tsuchiya, and research contributors Shinko Kagaya, Keiko Keta, Seki Kobayashi, Yukiko Nakatsuka, Nozomi Fukazawa, and Mariko Beppu) deciphered records of licenses (Denjumenjouhikae and Denjumenjouhikae II) owned by the Umewaka Rokuro family of Kanze noh shite performer, and clarified the process by which the Umewaka family, even with branch family status, was able to issue licenses during the Meiji period. The report by the Study Group, entitled "Aspects of transmission and reception of Noh,through the licenses given by the Umewaka family to its amateur disciples" (March 2017), includes the deciphered texts and its index, an introduction by Miura, and her article, "Licensing privileges and practices of the First Umewaka Minoru."

研究分野：能・狂言

キーワード：能 能楽 芸能 伝授 免状 近代

1. 研究開始当初の背景

シテ方観世流能楽師で梅若家 52 代当主の初代梅若実(1828~1909)が嘉永2年(1849)から明治41年(1907)までの約60年間を記した日記は、当時の能楽について詳述する貴重な資料である。その存在は学界・能楽界ではやくから注目されていたが、翻刻が『梅若実日記』(全7巻)として平成14・15年(2002・2003)に八木書店から刊行された。このような形で日記が公開されたことにより、近代能楽の研究を進める基礎が築かれた。

このような背景のもと、初代梅若実関係の資料などを解読する目的で、武蔵野大学能楽資料センターは平成15年に「初代梅若実資料研究会」を設立する。会員は加賀谷真子・氣多恵子・小林責・土谷桃子・中司由起子・深澤希望・別府真理子・三浦裕子の8名である(そのうち、『梅若実日記』の編集委員は、氣多・小林・三浦の3名)。

(1) 初代梅若実資料研究会の実績

初代梅若実資料研究会は定期的に研究会を催し、以下の成果を蓄積してきた。

梅若六郎家蔵『門入姓名年月扣』の翻刻および人名解説(1)~(5)と同資料の人名索引・補遺(『武蔵野大学能楽資料センター紀要』15~20号[2004~09年])

初代梅若実筆『芸事上数々其他秘書当座扣并二略見出シノ事』の翻刻(1)~(3)と同資料の解題・索引(『武蔵野大学能楽資料センター紀要』22~25号[2011~14年])。

(2) 初代梅若実資料研究会会員の個人的実績

初代梅若実資料研究会の会員が個人的に近代能楽に関する研究を行い、以下の成果を蓄積してきた。

三浦裕子「岩倉具視の能楽政策と坊城俊政 明治10年代を中心に」(『武蔵野大学能楽資料センター』23号[2012年])

氣多恵子「初代梅若実の日清・日露戦争」(『武蔵野大学能楽資料センター』23号[2012年])

別府真理子「初代梅若実と1000人の弟子」(『武蔵野大学能楽資料センター』24号[2013年])

小林責(梅若六郎玄祥・羽田昶との共著)「観梅問題の100年 梅若流の樹立から観世流への復帰まで」(『武蔵野大学能楽資料センター』24号[2013年])

2. 研究の目的

上記の成果を踏まえ、初代梅若実資料研究会は、梅若六郎家が所蔵する『伝授免状扣』『伝授免状扣・第二』(以下、『伝授免状扣』(全)とする)などの資料を用いて、平成25年(2013)度から28年度まで、研究課題「近

代における伝授と受容の諸相 免状に見る梅若家と素人弟子」に取り組むことにした。その目的に以下を掲げた。

(1) 『伝授免状扣』(全)を解読する。

(2) 近代の梅若家における素人弟子への伝授の実態、および免状発行の経緯などを解明する。

3. 研究の方法

研究の方法として以下の3点を掲げた。

(1) 『伝授免状扣』(全)の撮影によるデジタル化を図る。

(2) 初代梅若実資料研究会による定例研究会を年5回程度開催する。

デジタル化された『伝授免状扣』(全)を用い、共同してその翻刻を行う。

『伝授免状扣』(全)の索引(人名・曲名・その他)を作成する。

『伝授免状扣』(全)などを用い、おもに素人弟子への伝授にかかわる近代能楽の実態を解明する。

(3) 定例研究会にゲスト・スピーカーを招聘し、茶道や近世邦楽などの諸芸能における伝授の実態の講義を受け、能との比較を試みる。

4. 研究成果

(1) 『伝授免状扣』(全)の翻刻

初代梅若実資料研究会が『伝授免状扣』(全)を翻刻した。

その成果として、研究会が「梅若六郎家蔵『伝授免状扣』翻刻」「梅若六郎家蔵『伝授免状扣・第二』翻刻」を『武蔵野大学能楽資料センター紀要』26・27号(2015・2016年)に発表した。また、その改訂版として、研究会が「梅若六郎家蔵『伝授免状扣』(全)翻刻」を報告書『近代における能楽の伝授と受容の諸相 免状に見る梅若家と素人弟子』(2017年3月)に発表した。

(2) 『伝授免状扣』(全)の索引(人名・曲名・その他)の作成

初代梅若実資料研究会が『伝授免状扣』(全)の索引(人名・曲名・その他)を作成した。

その成果として、研究会が「梅若六郎家蔵『伝授免状扣』(全)人名・曲名・その他の索引」を報告書『近代における能楽の伝授と受容の諸相 免状に見る梅若家と素人弟子』(2017年3月)に発表した。

(3) 『伝授免状扣』(全)の資料的価値の確認

『伝授免状扣』(全)の解読を進めた結果、同資料が明治11年11月から明治40年12

月に至る、初代梅若実が素人弟子約 750 名に免状 1400 件余を発行した記録類の控えであることが判明し、近代能楽における貴重な資料であることを確認した。

その成果として、三浦裕子が「梅若六郎家蔵『伝授免状扣』(全) 解題」を報告書『近代における能楽の伝授と受容の諸相 免状に見る梅若家と素人弟子』(2017 年 3 月) に発表した。

(4) 初代梅若実が素人弟子に行った伝授の実態、および免状を発行した経緯の解明

『伝授免状扣』(全)のほか『梅若実日記』『門入姓名年月扣』など初代梅若実関係の資料を用いて、初代梅若実が素人弟子に行った伝授の実態、および免状を発行した経緯を解明した。以下に要点を記す。

『梅若実日記』明治 29 年 4 月 16 日の記事によれば、観世流 22 代宗家の観世清孝の了解を得て、初代梅若実が習物の伝授を行うようになったことが推定できる。その最初は明治 10 年 2 月、小笠原長国に対する 道成寺 の稽古であった。その際、初代梅若実が誓詞一札を受け取っている。

この実績を踏まえて、初代梅若実が明治 17 年から免状を発行するようになる。具体的には九番習謡(定家 大原御幸 当麻 遊行柳 藤戸 景清 俊寛 鉢木 隅田川 という習物 9 曲の謡)の免状を間宮四郎宛に 17 年 5 月に発行したのが最初である。なお、この日付は免状に記されたもので、実際の発行は同年 8 月であったと思われる。

この時期に免状を発行するようになった理由には、16 年暮から体調を崩していた梅若実がこの頃に復調したこと、九番習謡を稽古するような孫弟子が育ってきたことが考えられる。

能楽の世界では、かつては秘事伝授の際、弟子が師匠に起請文を差し出しており、その初期の例に、戦国期から江戸初期に弟子が下間少進に差し出した起請文があげられる。現在、この慣習は廃類しているが、本研究で初代梅若実がこの慣習を非常に重視していたことが判明した。

本来、「免状発行権」(免状を発行する権利)は「伝授権」(習物を伝授する権利)に付随するものと考えられるが、前述したように、明治 10 年から初代梅若実が習物を伝授するようになる。すなわち、伝授権だけを行使したのであり、これによって、伝授権と免状発行権が分離するような状態が起こる。

梅若家は 1921 年(大正 10 年)に梅若流を樹立する。これについて、観世流 22 代宗家の観世清孝が東京を不在にしていた明治初年に、梅若家が免状を発行

し始め、それが梅若流樹立の一つの要因になったという指摘がなされていた。しかし、初代梅若実が東京に戻ってきた観世清孝の了解を得て当初は習物の伝授だけを行い、免状は発行していなかった。このことから、従来の定説が誤りであったことがわかった。

また、初代梅若実が伝授権と免状発行権を分離することで生じたひずみが、梅若流樹立に影響を与えたことが明らかになった。

これらのことから、本研究は、近代能楽における免状の重要性を一層厳密に追究するものとなった。

以上の成果として、三浦裕子が「初代梅若実と免状 伝授権と免状発行権をめぐって」を報告書『近代における能楽の伝授と受容の諸相 免状に見る梅若家と素人弟子』(2017 年 3 月) に発表した。

(4) 定例研究会の開催

平成 25 年度に 5 回、26 年度に 5 回、27 年度に 5 回、28 年度に 4 回の定例研究会を開催した。この研究会ではおもに『伝授免状扣』(全)の翻刻・索引の作成を中心とする研究を進めたが、以下のゲスト・スピーカーによる講義も行われた(敬称略)。

前原恵美(有明教育芸術短期大学准教授、当時)

「三味線音楽・常磐津の伝授をめぐって」
平成 24 年 2 月 28 日
於 武蔵野大学能楽資料センター

川上閑雪(江戸千家宗家)

川上紹雪(江戸千家若宗家・岐阜大学客員教授)

オブザーバー・森田晃一(岐阜大学留学生センター教授)

「茶道における伝授と受容の諸相、およびそれに伴う免状の意味」

平成 24 年 6 月 6 日

於 江戸千家会館

山本東次郎(狂言方大蔵流能楽師・人間国宝)

「能楽における伝授と受容の諸相 山本東次郎家所蔵の起証文を中心に」

平成 25 年 3 月 31 日

於 杉並能楽堂

小林責(武蔵野大学名誉教授・本研究会会員)

オブザーバー・羽田昶(武蔵野大学客員教授)

「狂言研究家の系譜」

平成 25 年 5 月 29 日

於 久米美術館会議室

以上の成果の一部として、前原恵美が「常磐津節の伝授と家元制度をめぐって」を報告書『近代における能楽の伝授と受容の諸相 免状に見る梅若家と素人弟子』(2017年3月)に発表した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

初代梅若実資料研究会

「梅若六郎家蔵『伝授免状扣・第二』翻刻
『武蔵野大学能楽資料センター紀要』27号、
査読無、2016、pp.28 69

初代梅若実資料研究会

「梅若六郎家蔵『伝授免状扣』翻刻」
『武蔵野大学能楽資料センター紀要』26号、
査読無、2015、pp.23 61

[学会発表](計4件)

東洋音楽学会第66回大会(東京藝術大学、
東京都台東区、2015年)において

三浦裕子

「シテ方観世流能楽師・53世梅若六郎と横
浜 素人弟子とのかかわり合いを中心に」

ヨーロッパ日本研究協会(European
Association for Japanese Studies)第14
回国際会議(リュブリャナ大学、スロベニア
国リュブリャナ 2014年)でのパネル「能に
見る伝授の諸相 近世と近代の歴史的視点
から(Master-disciple relationships, and
the transmission and dissemination of Edo
and Meiji noh)」において(司会は加賀谷
真子)

深澤希望

「能の伝授における起請文の意
義”Exploring the place of *kishōmon* in
early transmission of Noh”」

氣多恵子

「『伝授免状扣』に見る梅若家の伝授の形
態 資料紹介を兼ねて”Umewaka Family
master-disciple transmissions, through
the lens of *denjumenjōhikae*”」

三浦裕子

「梅若家と横浜の素人弟子 稽古と能舞
台建設”The Emergence of the
Yokohama-yoshinkai, and the
founding of their Noh stage”」

[図書](計1件)

三浦裕子発行、報告書『近代における能
楽の伝授と受容の諸相 免状に見る梅若

家と素人弟子』、2017、140

内容は下記の5項目

初代梅若実資料研究会

「梅若六郎家蔵『伝授免状扣』(全)翻刻」
pp.7 83

初代梅若実資料研究会

「梅若六郎家蔵『伝授免状扣』(全)人名・
曲名・その他の索引」pp.84 99

三浦裕子

「梅若六郎家蔵『伝授免状扣』(全)解題」
pp.103 109

三浦裕子

「初代梅若実と免状 伝授権と免状発行権
をめぐって」pp.110 124

前原恵美

「常磐津節の伝授と家元制度をめぐって」
(平成24年2月28日にゲスト・スピーカ
ーとして定例研究会で行った講義「三味線
音楽・常磐津の伝授をめぐって」を論文化
したもの)pp.125 140

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

三浦 裕子(Miura Hiroko)
武蔵野大学文学部教授
能楽資料センター長

研究者番号:30646287

(3)連携研究者

土谷桃子(Tuchiya Momoko)
岐阜大学留学生センター准教授

研究者番号:70331139

(4)研究協力者

加賀谷真子(Kagaya Shinko)
ウィリアムズ大学教授
(アメリカ、マサチューセッツ州)

氣多恵子(Keta Keiko)
近世日本文学研究者

小林 貴(Kobayashi Seki)
武蔵野大学名誉教授

中司由起子(Nakatsuka Yukiko)
法政大学兼任講師

深澤希望 (Fukazawa Nozomi)
法政大学大学院博士課程日本文学専攻

別府真理子 (Beppu Mariko)
武蔵野大学能楽資料センター研究室員